

桜のトンネル開通

～福岡堰さくらまつり～

今年も福岡堰の桜が満開になり、桜のトンネルを歩く大勢の家族連れで賑わいました。

約1・8歳の桜並木では、大きなカメラを構える人や、お父さんに肩車されたお子さん、手をつないで歩くカップルなど、皆さん思い思いに桜を満喫されていました。

また、2日から6日まで「福岡堰さくらまつり」が開催され、3、4日には特設ステージで大黒美和子歌謡ショー、キャロライン玉子の大道芸、和太鼓などの素人演芸が行われ、多くの花見客が足を止めていました。



来年も桜のトンネルが開通するのが待ち遠しいですね。

十和小城山の里で校外学習

～いっぱい集まるかな？～

多くの自然が残る城山の里で、十和小学校の4年生が、植物観察の校外学習を行いました。

児童たちは、城山を考える会の方々から、里山にある植物や木々の説明を受けながら、ノートにその植物の絵などを熱心に書き込んでいました。

その後、「かぶと虫のねどこ」と題した囲いの中に、たくさんの落ち葉を集め、カブトムシの寝床を作りました。夏になるとそこにたくさんのカブトムシが集まってくるそうです。この夏

に、たくさんのカブトムシに会えるのを楽しみにしながら、寝床作りを熱心に行いました。

十和小学校では、環境教育として「里山における四季の体験学習」など児童が主体となった活動を進めています。2月には、その成果が評価され、幡谷教育財団（代表幡谷祐一理事長）から理科教育の優秀校に選ばれました。



城山の里では、夏と秋にお祭りを開催しますので、皆さんも里山に足を運んでみてください。

「育児は育自」

～市内幼稚園で入園式～

桜満開の下、市内3カ所の幼稚園で入園式が行われました。

谷和原幼稚園では、カメラやビデオを持つ多くの保護者が見守る中、63人の入園児が元気に入場しました。

さらに、担任の先生から自分の名前を呼ばれると、元氣よく大きな声で返事をしていました。

また、同幼稚園の石塚園長は、

保護者に「育児は育自」というメッセージを込め「子どもを育て、自分を育てる。幼稚園には子育てのプロがいるので、一緒にいい子を育てましょう」と話しました。

幼稚園生活では、小学校に入るまでの基礎、人との関わり方を学びます。お子さんの毎日の成長が家族にとって何よりの驚きとなるでしょう。



発行「間宮林蔵」新聞

～最優秀賞を受賞～

「輝く郷土の先人」新聞等コンクールにおいて、小絹小学校5年生の工藤大雅さんが見事最優秀賞を受賞しました。

工藤さんは、市の先人であり、昨年海峽発見2000年を迎えた間宮林蔵について新聞を作成しました。

受賞にあたって工藤さんは、「新聞を書くために、図書館でたくさん本を借りて、間宮林蔵のことを調べました。調べていくと、どんどん興味が強くなってきた、記事のアイデアもたくさん浮かんできました。他にも、間宮林蔵に関係する所へ写真を

撮りに行ったり、見学に行ったりしました。岡ぜきの間宮林蔵像を見学していたとき、風が強く、厚着をしていたにもかかわらず、思ったのですが、樺太探検をした林蔵は、もともとずっと寒くて大変だったのだらうと思いました。大きな新聞が書けて、とてもよかったです。」と感想を語ってくれました。



工藤 大雅さん